カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852 - 8113
長崎市上野町10 - 34
カトリックセンター内
Tel 095 - 843 - 3869
Fax 095 - 843 - 3417
振替口座 01880 - 5 - 2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈祷の使徒　祈りの意向

・教皇
キリスト者の共同体には賜物として多様なカリスマが、カトリック教会には多様な儀式の伝統があることを、聖霊の導きによって気づくことができるように

・日本
神が与えてくださったすべての命の尊さを悟り、互いを思いやることができるように

2024年 年頭の手紙

チェックをお願いします

大司教 ペトロ 中村 倫明

新しい年のごあいさつを申し上げます。昨年も大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年早々、質問をさせてください。最近のミサの前後に、あなたは何人の方と言葉を交わしましたか。次の空欄にご記入をお願いいたします。

主日	人
クリスマス	人
神の母聖マリア	人

わたしは、大司教として着座してからの2年間、折あるごとに同じことを言い続け、この紙面にも書き続けています。「声をかけてください」ということです。

本年も言わせてください。とってもとっても大切なことであると真剣に考えているからです。「お願いです。声をかけていきましょう」

ご存じのようにわたしたち長崎教区もたくさんの問題を抱えています。例えば〝教会に来る人が少なくなった。教会維持費や教区費も減ってきた。修道者や司祭の数が少なくなった〟など。そして、その問題解決のために、これまでもいろんな方策が考えられ提案もなされていますが、何度も申します。「祈りも宣教も召命もすべては声かけから始まります」。すべての基本は声かけです。

祈り…

神さまとの会話です。神さまに声をかけていますか。神さまからの声かけにも耳をかたむけていますか。

宣教や司牧…

福音を宣べ伝えたり、教会に招いたりすることです。「おはようございます」などと声をかけ親しくなることから宣教や司牧は始まっていきます。教会から離れている人にも「お元気ですか。どうしておられますか」などのこちらからの思いやりやお誘いの声かけは絶対に絶対に必要です。

召命…

神さまからの呼びかけです。でもそれを具体化したり、それに協力するためには「シスターにならんね」「神学校に行かんね」というわたしたちの声かけは大きな大きな助けになります。神さまはわたしたちを通しても働かれます。

何ごとにおいても…

何かを始めるためには「一緒に◯◯をしようよ！」と声をかけ、どうしていいのかわからない時にも声をかけて話し合い、分かち合っていきます。

あいさつ…

あいさつすることは日常生活の基本です。信仰生活においてこそ基本であるべきです。それも一度すればそれで終わりではありません。毎日・毎回、何度も行います。

昨年10月のことです。日本カトリック障害者連絡協議会の全国大会がここ長崎の長崎純心大学を会場に行われました。全国からさまざまな障害のある方々が集まっておられました。その大会最後の全体会の時、彼らの思いが語られました。一番多かったご意見は、「わたしたちに声をかけてもらえていない」ということでした。中には「わたしについての質問なのに、付き添いに声をかけて、本人のわたしには声をかけてくれません。わたしには対応できないと考えているのでしょう」という方もおられました。

大会が終わった後にも、長崎の全盲の視覚障害の方からお手紙を頂きました。「わたしは結婚してから信者になりました。教会は共同体として信者同士が親密に交流し、助け合っているものと思っていました。しかし、礼拝に向かう人は何人もいても、誰一人として声かけや誘導がないのはなぜでしょう。信者の信心『汝の隣人を愛せよ』とは何でしょう。障害者への声かけはそんなに抵抗があるのでしょうか」。目が見えておられなくても、大切なことが見えておられる方です。

わたしもミサにおいでになった方々お一人おひとりに声をかけたいです。そう考えて退堂の時、「おめでとうございます」とか「ありがとうございました」などと手を振りながらあいさつをしていました。ところが「威厳がない。荘厳でない。司教らしくない。黙って十字架の祝福を頂きたい」というお声もあります。ミサの終わりには最後の祝福をちゃんと行ってはいるんです。それでも足りないのでしょう。これからは、十字架のしるしをしながら、声をかけさせてください。

わたしたちは神の家族です。家族がミサに集まってきているのに、どうして一言も声もかけないで黙って帰ってしまうのですか？　声をかけることによって、家族の絆は強くなっていきます。何年も何十年もミサに来て一緒に祈っているのです。家族全員のお名前ぐらい言えてもいいはずです。なのに、話しすらしたことのない人もいっぱいいるのではないでしょうか。

子どもたちや青年たち、脆弱な人々にも声をかけていますか。お名前で声をかけ、話しができるようになれたらいいですね。

知らない人にこそ声をかけていきましょう。初めて教会においでになった人もいます。「どちらからですか？よくおいでになりましたね」などとどうして喜んで声をかけないのでしょうか？　神さまこそその人を喜んで迎えてくださっているのに！　声をかけることによって、わたしたちのお友だちも神さまのお友だちも増えていきます。

どうぞ、今年もともに声をかけ合い（愛）ながら、「ともに参加し ともに交わり ともに宣教する長崎教区」づくりを一緒に行っていきましょう。

これからもチェックをお願いいたします。
今日、誰かに声をかけましたか？
今日、誰かを教会に導き招きましたか？
主はみなさんとともにいて
すべての人を救いへと招いておられます。

こどもたちへ

ことしもよろしくおねがいします。
ことしもおとなのみなさんに
こえをかけてくれるようにと
おねがいしました。

こえをかけてもらえなかったら
こえをほしいとみなさんのほうから
こえをかけてくださいね。

それから　かみさまからは
「いつもいっしょにいるよ」と
こえをかけてもらっていることを
これからもわすれないでくださいね。

だいしきょう
ペトロなかむらみちあき

ほしかげ

夕陽が早く落ち、灯りが目に付く時節、電飾に彩られた光景があちらこちらに。繁華街を歩けば、耳慣れたクリスマスソングの雨が降り注ぎ、高揚感を感じる。宣教国であるのに、これほどキリスト教文化が浸透しているのは何か不思議。各教会やミッションの各施設などを通して福音が少しずつ広がっているのかも▲この時期、朝夕の暗いうちに空を見上げると、空気が澄んでいて星が数多く瞬いている。わたしはここにいる、とその存在を主張しているかのよう。東方で星を見た学者たちは、旅を決意し、光を確認するため足を運んだ。そして、光は闇の中で輝いていた▲宣教司牧に取り組んで数十年。実りを自負した時もあったが、時代の流れには抗えず、少子高齢化と共に教会離れに苦しんでいる。打つ手は中々見つからない。指導者側の信徒離れによるのかもしれないが、先を見通すと夕暮れの相を呈しているかのよう▲しかし、恒星の輝きのような、はっきりとした光も目に映る。毎朝ミサに通う小中学生の侍者と高齢者の中に一筋の光と希望が見え、まだまだ先はあると励まされる▲子供たちの召命が減り、司祭も修道者も高齢化が進み、数十年後はどうなっているのかと危惧する声あり。今が頑張り時とささやく声あり。ああ、一筋の光が見えた。そんな瞬間を迎えたい。幼子が放つ光を訪ね求めて、歩を進めながら。（万）

パートナーシップ宣言の4教区
核禁止条約締約国会議を強く支持　昨年11月に声明発表

〝私たちが祈り続けていることを知ってください〟

昨年11月27日から12月1日まで、米ニューヨークの国連本部で核兵器禁止条約の第2回締約国会議が開かれた。条約に参加する59の国と地域、オブザーバーとして35カ国が参加したとされるこの会議では、最終日に「核なき世界」を目指す取り組みを続ける旨の政治宣言が採択された。会議開幕日の11月27日、中村倫明大司教は長崎教区のすべての人に向けて、「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」を結んだ4教区―サンタフェ、シアトル、長崎、広島―による声明について、小教区や教区ホームページを通して知らせを出した。核兵器禁止条約の発効（2021年1月22日）からまもなく丸3年。全世界のカトリック教会が「世界平和の日」として祈る1月1日にあたり、平和への思いを新たに声明文をここに掲載する。

私たちは、核兵器保有国が、1970年の核拡散防止条約（NPT）の下で世界的な核軍縮につながる真剣な交渉に入るという長年の義務を一度も果たしていないということを指摘し、確認します。2023年5月、広島で開催された主要7カ国首脳会議（G7）に集まった指導者たちに、この約束を守り、他の指導者たちを説得するよう呼びかけました。しかし、私たちが発信した希望のメッセージは彼らの耳に届かず、何の反応も得られませんでした。

対照的に、2021年1月の核兵器禁止条約の発効は、平和の光への大きな一歩であり、核兵器による世界消滅の脅威のない世界を求める人々に希望をもたらしました。核保有国には、世界の大多数の声に耳を傾け、核保有国を率いる9人の指導者のうちの誰かの気まぐれで存亡の危機にさらされる人々の声に耳を傾ける道義的義務があると信じます。ウクライナをめぐるロシアの核兵器使用の脅しはこのことを明確に示していますし、中東で進行中の危機はそのリスクをさらにエスカレートさせています。一方、核兵器保有国は、核兵器を永久に保持するための大規模な「近代化」計画に取り組んでいます。

核兵器禁止条約の国際的な法的効力は、条約に正式に加盟した国に限られます。しかし、その道義的な力は、国境や地図上の線引きを認めません。この条約の道義的な力はグローバルで普遍的なものなのです。

第2回締約国会議では、核兵器の使用や実験によって影響を受けてきた人々の声とともに、条約に参加した国々の声が届けられます。この第2回締約国会議は、希望、光、そして核兵器のない世界への旅路のもう一つの歴史的な一歩なのです。

2019年、広島平和記念公園で、教皇フランシスコは「核兵器の保有は、それ自体が倫理に反しています」と宣言しました。また、長崎の爆心地では、「（カトリック教会は）核兵器禁止条約を含め、核軍縮と核不拡散に関する主要な国際条約に則り、たゆむことなく、迅速に行動し、訴えていきます」と述べました。

普遍的で検証可能な核軍縮に取り組みながら、この条約を支持することは、私たちの教区の義務です。私たちは、核兵器禁止条約第2回締約国会議を強く支持します。

さらに私たちは、世界の指導者たちに対し、原爆投下から80年を迎えるまでに、核軍縮に向けた計測可能な進展を示すよう特に要請します。核兵器の人類への深刻な悪影響が増大しています。2025年8月は、世界の指導者たちが、約束されながら先延ばしにされてきた核軍縮の進展について説明責任を果たす適切な時となるでしょう。

平和のため、癒しのため、行動のために、私たちが祈り続けていることを知ってください。

サンタフェ大司教　ジョン・C・ウェスター
シアトル大司教　ポール・D・エチエン
長崎大司教　ペトロ中村倫明
広島司教　アレキシオ白浜満
長崎名誉大司教　ヨセフ高見三明

長崎教区の皆さまへ

「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」の4教区は、第2回締約国会議への支持を表明する声明を出しました。

長崎教区の皆さま方も、第2回締約国会議にあわせて、今回の会議が核兵器廃絶に向けて大きな成果をもたらすことができますようにお祈りください。合わせて、会議に不参加を示している日本政府が、一日も早く積極的に参加し核兵器廃絶と世界平和のためにリーダーシップを取りますように、また現在戦いを行っている国が核兵器を使用することがないようにだけでなく、戦争そのものが終結するようにもお祈りください。

2023年11月27日
カトリック長崎大司教区
大司教　ペトロ中村倫明

核兵器禁止条約第2回締約国会議を支持する声明

2023年11月27日

被爆78年を迎えた長崎で、私たちカトリック教会の指導者は、核軍縮に取り組むための永続的なパートナーシップを正式に結びました。私たちの4教区には、核兵器発祥の地（サンタフェ大司教区）、米国で最も核兵器が配備されている場所（シアトル大司教区）、そして今日まで悲惨な原爆攻撃を受けた唯2つの都市（広島教区と長崎大司教区）が含まれています。こうした核兵器に関連する諸問題との直接的なつながり故に、私たちは、11月27日から12月1日までニューヨークの国連で開催される「核兵器禁止条約第2回締約国会議」への強い支持を表明します。

2017年7月、バチカンはこの条約に署名した最初の国家となりました。この条約は、化学兵器や生物兵器など他の大量破壊兵器を禁止する長年受け入れられてきた条約のように、核兵器を禁止するものです。核兵器禁止条約は現在、93カ国が署名し、69カ国が批准しています。

← 2023年11月27日付「核兵器禁止条約第2回締約国会議を支持する声明」のページ

← 2023年8月15日付「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」に関するページ

2020年
〝被爆75年から5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

二〇二四年 謹賀新年

大司教　中村倫明(35)
名誉大司教　髙見三明(51)

長崎大司教区

下川英利(63)長崎市
山内豊(63)平戸市
山内清海(62)大司教館
村中司(61)長崎市
峰徳美(61)〃
平野勇(60)〃
野下千年(60)恵の丘
小島栄(59)大司教館
萩原劭(57)お告げ本部
川上忠秋(56)大司教館
片岡久司(56)〃
濱﨑靖彦(55)〃
長谷功(55)聖マルコ園
橋本勲(54)センター
山川忠(54)大村市
下口勲(51)島原
大山繁(50)平戸口
松下光男(48)上神崎
小瀬良明(48)神崎
村川昌彦(47)鹿子前
関口七郎(47)センター
山内実(46)相浦
諸岡清美(46)
大浦天主堂司祭館
岩村知彦(42)桐
烏山邦夫(42)八幡町
古巣馨(42)大司教館
山脇守(41)中町
山田聡(40)稲佐
中村満(39)田平
岩崎康彦(39)佐々
川内和則(38)平戸
久志利津男(38)時津
髙野治(38)大野
下山盛朗(37)出津
鳥瀬文武(37)青砂ヶ浦
牧山強美(35)大神学院
福島光明(34)植松
眞浦健吾(34)褥崎
中濱敬司(34)鯛之浦
紙﨑新一(33)浅子
平本義和(33)長与
葛嶋秀信(33)センター
中濱繁喜(33)青方、丸尾
鍋内正志(32)深堀
山村憲一(32)浦上
岩崎晋吾(31)諫早
下窄英知(31)大分・鶴崎
中田輝次(31)
福江、浜脇、井持浦
湯浅俊治(29)大神学院
浅田照明(29)太田尾
大水文隆(29)大浦
辻原達也(28)小ヶ倉、大山
川原拓也(28)滑石
松田聡史(27)大曽
山本一郎(26)木鉢
嘉松宏樹(26)福岡コレジオ
中島誠志(26)三浦町
山田良秋(25)水主町
川口昭人(25)俵町
一ノ瀬輝幸(25)早岐
岡秋美(25)飽の浦
熊川幸徳(24)大神学院
大瀬良直人(24)三井楽、貝津
竹内英次(23)福岡・二日市
岩本繁幸(22)センター
尾髙修一(22)中央協議会
川原昭如(22)宝亀
葛島輝義(21)浦上
工藤秀晃(21)浦頭
鶴﨑伸也(21)紐差
竹谷誠(20)三ツ山
前田達也(20)大司教館
本田靖彦(20)黒崎
岩下和樹(18)福岡・茶山
山口竜太郎(18)小神学院
鶴巻健二(18)木鉢（小瀬戸）
汐留義和(17)西木場
熊谷裕司(17)水ノ浦
谷脇誠一郎(16)馬込
山添克明(15)黒島
野濱達也(15)真手ノ浦
岩下裕志(14)山田
中尾直通(13)大神学院
大水満(11)浜串
中野健一郎(10)浦上
川端志範(9)大崎
小島明(8)奈留
稲田伸也(8)福岡コレジオ
山内啓輔(7)神ノ島
下原和希(6)仲知
キム・ボム(5)天神
宮原大地(4)土井ノ浦
青田憲司(3)曽根
稲田祐馬(3)福江
鼈甲屋賢治(2)浦上
ナム・シジン(2)小神学院
西田祐尚(2)福江

修道会など

●イエズス会
泉類治(60)
二十六聖人修道院
柗村信也(30)〃
デ・ルカ・レンゾ(27)〃
キム・ヒョンウク(8)
日本二十六聖人記念館

●コンベンツアル聖フランシスコ修道会
稲国安彦(65)湯江修道院
濱田盛雄(64)湯江
西山達也(63)湯江修道院
萩原栄三郎(59)小長井修道院
山内春治(59)湯江修道院
瀧憲志(58)〃
﨑濵宏美(56)
聖母の騎士修道院
水浦征男(55)〃
山下公輝(45)湯江
大野幹夫(41)湯江修道院
キム・ヒーイル(28)東長崎
山口雅稔(19)本河内
イ・シンヒョン(12)
聖コルベ志願院
中野里晃祐(新)
聖母の騎士修道院

●聖アウグスチノ修道会
今田昌樹(30)城山
遠山満(26)〃
松尾太(6)〃

●レデンプトール会
瀬戸高志(29)愛宕

●フランシスコ会
片岡仁志(61)長崎修道院
村上芳隆(41)本原
アルベルト・マーフィル(34)長崎修道院
松本巌(27)〃
古里慶史郎(22)〃
ベラルド・ヤン(20)〃

●神言修道会
川上栄光(50)西町
永山誠(44)長崎修道院
西経一(40)〃
大川好洋(33)西町
ヨセフ・ブルーノ・ダシオン(27)〃
ティブルティウス・ヘリ(25)聖ルドヴィコ修院
ネルソン・アブライ・バルバロナ(9)西町

●マリア会
坪光正躬(52)海星修道院
末吉克久(41)〃

●サレジオ修道会
バルカザル・ペドロ(51)イエスのカリタス牧野修道院
濵﨑敦愛(24)野

●韓国殉教福者聖職修道会
キム・ドンウク(13)香焼
カン・デフン(12)滑石

●聖ビンセンシオの宣教会
アウグスチン・トゥ(2)センター

●オプス・デイ
木村昌平(20)長崎
硲恵介(10)〃

（）内は叙階年数

第25回日韓司教交流会

〝和解と一致の旅〟であること確認

昨年11月13日（月）から16日（木）まで日韓司教交流会が東京を会場に行われ、韓国から23人、日本から16人が参加しました。1996年に韓国3人、日本2人で「日韓教科書問題懇談会」という形で始まった交流会は、今回で25回目。わたしにとっては1回目でした。

今回は、13日の小田原でのオプショナルツアーから始まりました。わたしが参加できたのは14日昼からのプログラムです。

交流会の様子（写真提供＝カトリック新聞社）

わたしたちは、25周年を迎えて双方の代表司教によるこれまでの歩みの振り返りと今後に向けての展望を見つめ、この交流会が〝和解と一致の旅〟であり〝シノドスの旅〟であることを確認しました。

特にわたしたちの心を強く捉えたのは、15日に日韓の青年たちをパネリストとして開かれた公開シンポジウムでの青年たちの声でした。「もっとわたしたちに関わり、その声を聞いてほしい。わたしたちの情熱や教会に対する思いを信頼して任せてほしい」という力強い提案でした。

これらを受けて交流会の中では、上からの指示や組織づくりをしてわたしたちの計画や思いの中に青年たちの存在や働きを埋め込んでいくのではなく、青年たち自身による思いや動きを大切にしなければならないということを分かち合いました。長崎教区においても同じです。青年だけではなく、信徒それぞれの立場から発せられる自主的な思いや動きを邪魔せず育みながら教区の活性化を願います。

また、江戸・鳥越の殉教記念碑と関東大震災（1923年9月発生）時の朝鮮人犠牲者追悼碑を訪れ、祈りと花束をささげました。東京カテドラルでの連日のミサには、平日昼間であるのに、多くの信者の皆さんのご参加に胸を打たれました。

（中村倫明）

県北の戦争遺構を巡る

教区平和推進委員会「秋の平和学習」

教区平和推進委員会の主催により、11月23日（木・祝）秋の平和学習が開催された。

新たな試みとして開始した学習会は、県内に残る戦争遺構を訪れ、原爆に至った戦争とその悲惨さについて学ぶことを目的とするもの。今回は司祭2人、信徒14人が参加し、県北を巡った。川棚魚雷発射試験場跡（右の写真）、無窮洞（むきゅうどう、旧宮村国民学校地下教室）、浦頭引揚記念資料館（下の写真は資料館近くの「引揚第一歩の地」碑の前で撮影）、旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設などを訪問した。

防空壕として子どもたち（現在の中学生）が掘った無窮洞では、地域ガイドの案内により、空襲時には600人の生徒が避難し、教室や生活空間として利用した防空壕内を見学した。また、訪問先各所で、戦争犠牲者のほか、生きて故郷の地を踏めなかった人々、子どもたちのため、また世界で起こっている紛争の終結を願い、祈りをささげた。素晴らしい秋空の下、美しい風景と相反するような悲しい歴史を知る学習会となった。

平和推進委員会では引き続き、第2次世界大戦の歴史的背景を、県内に残る施設を巡りながら学ぶことのできる機会を考えている。

（教区平和推進委員会）

1月18日～25日 キリスト教一致祈祷週間

毎年1月18日から25日まで、全世界で「キリスト教一致祈祷週間」が行われている。2024年のテーマは「あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」（ルカ10・27参照）。長崎では、長崎キリスト教協議会とカトリック長崎大司教区の主催により、1月21日（日）14時から日本基督教団長崎古町教会で礼拝が予定されている。

シノドス第16回通常総会・第1会期終了

ともに歩む教会のため

第2会期は今年10月に開催

「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマとする世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会の第1会期が昨年10月に行われた。第2会期は今年10月に開催される。

第1会期は、昨年10月4日（水）開会ミサをもって開幕。連日の討議を経て、10月28日（土）総括文書を採択、翌29日（日）に閉会ミサをもって終了した。今シノドスのメンバーは、枢機卿、司教、司祭、修道者、信徒、招へいされた使節・代表など計464人。日本からは日本司教協議会会長の菊地 功大司教（東京教区）を含む3人が参加した。約1カ月にわたる総会の合間には、ローマのカタコンベへの巡礼のほか、世界の情勢を背景に、移民のための祈りの夕べ、平和のためのロザリオの祈り、世界平和のための祈祷集会などが行われた。

また第1会期の終了に合わせ、全教会に宛てた「神の民への手紙」（全文はカトリック中央協議会ウェブサイト）と今会期の討議の実りである「総括文書」が採択された。今後、第1会期の成果と提案を元に、2024年10月に開催されるシノドス総会・第2会期に向けた準備が進んでいく。（バチカン・ニュース）

教皇フランシスコは、10月29日の閉会ミサでこの日の福音箇所（マタイ22・34-40）を取り上げ、説教を行われた。以下はバチカン・ニュースから。

第1会期の歩みを終えるにあたり、教皇は「神をすべてのいのちをもって愛し、隣人を自分のように愛する」というすべての出発点・再出発点であるこの「原則かつ基礎」を見つめるようにと招かれた。そして、この「神と隣人を愛する」という愛の態度を、「礼拝し、奉仕する」という2つの動詞で表現。（中略）「わたしたちは、実に多くの教会改革のためのアイデアを持っているかもしれない。しかし、神を礼拝し、兄弟を神の愛で愛すること、これこそが永遠の偉大な改革であることを忘れてはならない。礼拝する教会、奉仕する教会とは、傷ついた人類の足を洗い、弱く、見捨てられた人と歩みを共にし、優しさをもって最も貧しい人々のところへ出かけていく教会である」。教皇は、主の導きと助けのうちに、神を礼拝し、人々に仕え、福音の喜びを皆にもたらす、よりシノドス的で宣教的な教会を目指そうと、シノドス関係者はもとより、全教会に励ましを送られた。

黒瀬の辻殉教祭

平戸地区全体から約100人集う

残暑がいつまで続くのかと思いきや、一転して寒さが襲ってきた11月12日（日）、なんとか太陽の臨める秋空の下、黒瀬の辻殉教祭が行われた。

4年ぶりに、山田小教区だけでなく平戸地区全体から信徒も参加し、司祭団7人を含め、総勢約100人が黒瀬の辻殉教碑公園に集い、記念ミサがささげられた。

説教を担当した大山繁師（平戸口教会）は、かつて赴任していた頃の生月の地に思いをはせながら、現代に生きる私たちが生きるべき〝殉教〟がある、と語りかけた。

山田小教区としても久しぶりの規制なしでの開催ということで、多少緊張したところもあったものの、無事に行われたことを皆で喜んだ。

コロナ禍にあっても、規模縮小にあっても、続けることを選んだ決断が、これからの未来に大きな力となることを願った。その願いは、生月の殉教者たちが未来に向けてささげた思いに連なっているのではないだろうか。

（山田小教区）

短信

〈神学生養成援助献金〉

昨年11月18日（土）教区評議会女性部の代表者らが大司教館を訪れ、神学生養成援助のための献金706万3886円（小切手）を中村倫明大司教に手渡した。

〈神学生らへの援助物資〉

昨年11月19日（日）平戸地区評議会の代表者らが長崎カトリック神学院を訪れ、神学生らのために同地区で集めた援助物資と寄付金を届けた。

〈教区家庭委員会の映画上映会〉

教区家庭委員会平戸地区は昨年11月23日（木）、上神崎教会で映画『桜色の風が咲く』の上映会を実施した。会場となった聖堂には上映前の早い時間から信者らが集まり、司祭・修道者・信徒、また、中村倫明大司教も一緒に映画を鑑賞し、感じた思いを分かち合った。

〈自死された方々への追悼ミサ〉

ゆりの会主催、教区人権委員会協力による追悼ミサが、昨年11月25日（土）14時から西坂・聖フィリッポ教会でささげられた。デ・ルカ・レンゾ師（イエズス会）の主司式、中村倫明大司教と葛嶋秀信師の共同司式のもと、集まった人々が共に祈った。

ぶどう園

▼朝祷会　1月16日㈫7時30分、中町教会で祈り。その後、朝食（各自持参）。

※毎月第3火曜日実施。

問合先…教区エキュメニズム・諸宗教委員会　竹谷神父（三ツ山教会）

▼一日の祈りの集い　2024年1月25日㈭三浦町教会。各教会に配布の案内を確認の上、開催日の1週間前までに申込み。定員15人。参加費500円。TEL 095-847-7411

感謝

―寄付―

長崎カトリック神学院

●平戸地区評議会様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

教区生涯養成委員会主催 カトリック講座2023 ― 公開講座のご案内 ―

現在、隔週土曜日に「カトリック講座（全10回）」を開催し、好評をいただいております。最終回となります2024年2月17日（土）の講座内容は中村大司教様による「聖週間の典礼について」です。灰の水曜日直後ということもあり、聖週間の典礼についての理解と、主の復活に向けてのよりよい黙想の機会となれば幸いに存じます。オンラインでの参加はもちろん、カトリックセンターホールを解放して、多くの皆様の参加をお待ちしています。問い合わせは生涯養成委員会まで。よろしくお願いいたします。

生涯養成委員会　山添克明

- ◆講　師　中村倫明大司教
- ◆日　時　2024年2月17日（土）10時～12時
- ◆内　容　聖週間の典礼
- ◆場　所　カトリックセンターホールまたはオンライン受講（Zoom）
- ◆受講料　1,000円　2023年度分のカトリック講座を履修の方は受講料は不要です。
- ◆申込先　カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会　Fax 095-841-7732　✉cnsy.kouza@gmail.com
- ◆問合先　Tel 095-841-7731

申込〆切 2024年1月31日（水）

＊申し込みは「申込用紙」または右のフォーム→からお願いいたします。

2023年度

恩師イエール神父の追悼も
神学院感謝祭（福岡）

昨年11月21日（火）聖母マリアの奉献の記念日に、福岡カトリック神学院に前田万葉枢機卿をはじめ11人の司教、司祭、修道者、信徒、合わせて約190人が参集し「感謝祭」が行われた。また2023年8月に99歳で亡くなられたゼノン・イエール神父の追悼ミサも合わせて行われたため、例年になく多くの人が参加した。

感謝祭は日頃、神学院や神学生召命のために援助してくださる方々に、神学院が感謝を表明する日である。司式した前田枢機卿は、これまで司祭養成に尽力してきたスルピス会員、養成に協力してくださったすべての人への感謝の言葉を述べた。また、自身の指導司祭であったイエール師からいつも「神を中心に据えること」、「召命への自己責任」を教えられ、そして「柔和、謙遜」な師の姿が今の糧になっていることなどを語った。

ミサの拝領唱の後には、牧山強美院長が感謝の言葉を述べた。その中で、特にイエール師の面影を想起させながら、イエール師の人柄を「悩める人を自分のふところ深くまで受け入れ、慈しみ深い主を彷彿させる方」としてたたえた。その後、参加者全員でイエール師の日本での奉仕に感謝しながら「その人は幸い」を献歌した。

「裁可会則800周年記念ミサ」について

コンベンツアル聖フランシスコ修道会

昨年の2023年は、アシジの聖フランシスコが主イエス・キリストにおける兄弟たちのために書いた修道会の「会則」が、教皇の勅書によって裁可されて800周年にあたりました。コンベンツアル聖フランシスコ修道会日本管区では、11月23日（木）に長崎市本河内の聖母の騎士修道院において、フランシスカン家族の修道会の兄弟姉妹たちや信者さんたちと共に「裁可会則800周年記念ミサ」をおささげしました。また、このミサの中で、司祭叙階および修道誓願の銀祝（25周年）を迎える兄弟たちのお祝いも、併せて行いました。

記念ミサに先立つ22日には、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の国際養成担当者マキシミリアノ・センビリング神父による「フランシスカンとしてキリストの弟子になる」というテーマの講話など、コンベンツアル・フランシスカンとしての霊性を深める時を持ちました。

日本管区の兄弟たちが一同に集う「兄弟の集い」が開催されたのは、2019年以来4年ぶりということもあり、お互いに近況を報告し合い、日頃の労苦をねぎらって、あらためて主イエスにおける兄弟としての絆を確かめることができました。この恵み深い時間を共に過ごせたことを神様に感謝いたします。

聖母の騎士修道院
中野里晃祐

堅信の秘跡を受けて

上五島地区

上五島地区合同堅信式が昨年11月12日（日）午後2時から青方教会で中村倫明大司教司式のもと行われ、中学生17人が堅信の秘跡を受けた。

大司教は説教の中で受堅者に対し、子を想う親の気持ちがどれだけ深いものであるかのたとえ話をし、それが父である神様ならなおさらのこと子どもたちを想っているのだと語った。また、洗礼の時にいただいたろうそくのともし火、その輝きを堅信を通してもう一度思い出してほしい、そして、そのともし火をこれからたくさん輝かせてほしいと話し、受堅者を力づけた。式の終わりには、中村大司教から堅信の記念として受堅者にろうそくが配られ、受堅者の励みとなった。

長崎南地区

11月26日（日）王であるキリストの祭日に、長崎南地区合同堅信式が香焼教会で行われた。毎年11月最後の日曜日に実施されてきた合同堅信式には、今年各小教区で準備を整えた受堅者らが出席。大人2人と中学生24人の計26人が、中村倫明大司教から塗油を受け、福音宣教の決意を新たにした。

大司教は説教の中で「何度でもゆるし、どこへでも出向き、大切な人と寄り添うこと」を説き、それぞれの家族と共生すること、傷ついた弱者に歩み寄る「愛の実践」が福音宣教になることを確認した。受堅者はそれぞれの小教区と家族に支えられ祝福を受けて、洗礼の恵みを再確認した。教会共同体は、受堅者の福音宣教の担い手としての旅立ちを祝った。

東長崎教会でも

11月19日（日）には東長崎教会においても、中村倫明大司教の司式により堅信式ミサが行われた。東長崎（中学生9、大人3）、湯江（中学生1）、愛野（大人1）の各教会の計14人が堅信の秘跡にあずかり、皆で喜びを分かち合った。

6地区の代表集まる!!

教区女性部ソフトバレーボール大会

「目指せ、純心高校体育館!!」をキャッチフレーズに各地区での大会が行われ、11月23日（木）に純心高校体育館で第4回長崎教区評議会女性部・ソフトバレーボール教区大会が行われた。コロナ禍のために3年間中止となり、4年ぶりの開催となった。

コロナ感染の影響もあり、選手集めや大会開催自体が困難となり、地区によってはソフトバレーから他の競技に変わったり、大会が開催されなかったりした。しかし一方ではまだソフトバレーを続けている教会もあり、大会があるならばまた始動するという教会もあると聞いたりした。そこで女性部担当司祭が中心となって各地区に教区大会の案内をし、司祭団主催の地区大会の開催をお願いした。その呼びかけに応え、6地区の代表9チームが出場し教区大会が開催された。結果は以下の通り。

優勝　木鉢教会／準優勝　大山・香焼・馬込教会連合／3位　大崎教会、時津教会

皆さん、よう頑張りました!!

長崎南地区女性部
担当司祭　岡 秋美

子ども聖歌の集い

昨年12月3日（日）中町教会で第28回子ども聖歌の集いが5年ぶりに行われ、長崎3地区から9小教区の子どもたち103人が参加した。みことばの祭儀に続き聖歌の集いが始まると、それぞれ教会の紹介と聖歌を披露。最後に司祭団バンドの演奏もあった。特別賞は、浦上、滑石、水主町の3教会。この日集められた献金は、パレスチナの戦争で苦しんでいる子どもたちのためにカリタスジャパンを通して送られた。

アセルラ
新井幸子修道女
（純心聖母会）

昨年11月2日逝去。91歳。東京都生まれ。1962年初誓願。70年終生誓願。初誓願後、東京純心女子学園の開校準備のため、初代会長シスター江角の手となり足となって尽力した。64年八王子修道院が開設、学園の経理に携わり基礎を築いた。79年鹿児島修道院へ。鹿児島純心女子学園の経理を担当し、運営に力を注いだ。小柄な体型の中にも江戸っ子気質のさっぱりした歯切れのよい語り口で、教職員や業者に関わり宣教に努めた。2003年修道院内での奉仕に専念していたが、体調を崩し病床にあった。23年6月、最期をロザリオの聖母修道院で過ごした。穏やかな祈りの日々を過ごし、静かに御父のみもとに召された。

テレジア
下村昭子修道女
（お告げのマリア修道会）

昨年11月8日逝去。84歳。1939年長崎市生まれ。54年桐修道院に入会。63年初誓願、76年終生誓願宣立。

入会後、約20年間保育士として働き、その後、園長として約60年間のほとんどを保育事業にささげた。その間、院長として修道院の責任も担った。幼い頃被爆しながらもたくましく、かつおおらかに生き、細やかな心遣いを忘れなかった。

7年ほど前に大病を患い、その後、さまざまな病気で入退院を繰り返し、晩年は特別養護老人ホーム「わかまつ」で手厚い介護を受けた。忍耐と祈りの人であった。

葬儀ミサ・告別式は11月10日、桐教会で行われた。

CALIS Catholic Life Service

カリス通信　1月号
カトリック生徒総合補償制度のご紹介

カリスでは、カトリック学校の児童や生徒のケガや病気による入院等を補償する「カトリック生徒総合補償制度」を全国数多くのカトリック学校を通してご案内しております。児童や生徒のケガ等、学校施設内や通学中に限らず24時間補償します。保護者の皆様にパンフレットを配布し、任意でご加入いただく制度です。

＜補償内容＞

●児童・生徒本人のケガの補償
児童や生徒本人が、急激かつ偶然な外来の事故で、①通院されたとき、②入院されたとき、③手術されたとき、④後遺障害が生じたとき、⑤亡くなられたとき、所定の保険金をお支払いします。海外旅行中のケガ、地震・噴火・津波によるケガ、熱中症、細菌性食中毒（O157等）、特定感染症（SARS、鳥インフルエンザ）も補償します。

●児童・生徒本人の病気による入院補償
児童や生徒本人が、病気を被り1泊2日以上の入院をされたとき、所定の保険金をお支払いします。

●他人にケガをさせてしまった、他人のものを壊してしまった場合の補償
児童や生徒本人に加え、ご家族の日常生活での偶然な事故により万が一、国内外で他人にケガをさせてしまったり、他人のものを壊したことにより生じる、法律上の損害賠償責任を補償します。昨今の自転車条例（保険加入義務）にも対応できます。

●児童・生徒が外出時に偶然な事故で携行品を壊してしまった場合の補償
住宅外において児童や生徒の持ち物（携行品）が偶然な事故により破損したり、盗難にあったりして、損害を受けた場合に保険金をお支払いします。

●扶養者に万が一の事故があった場合の学業費用の補償
本制度は、カリスと契約をしたカトリック学校を対象に、入学手続き書類への同封や入学手続き説明会時にパンフレットを配布して保護者の皆様にご案内しております。大切な児童や生徒をお守りするための本制度を是非ご利用ください。

※本ご案内は「カトリック生徒総合補償制度」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、パンフレットおよび団体総合生活保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。

私たちが、お守りします。　三條貴英　毛利玲子　山本泰彦　服部秀昭　川口 薫神父(顧問)

カトリック共済システム
有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
23TC-005457（2023年11月作成）
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

内科・循環器科
医療法人 平田クリニック
院長　ヨゼフ　平田哲也
通所リハビリテーション
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅
長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前